

開催地名：群馬県みどり市	
開催日時	令和元年 11 月 30 日（土） 13：30 ～ 15：00
開催場所	花輪三区集会所
語り部	草 貴子 （宮城県仙台市）
参加者	中野自主防災会（地域住民）約 70 名
開催経緯	東町第 2 区中野地区では、平成 23 年度に自主防災組織を結成し、以後毎年 1 回緊急連絡安否確認避難及び誘導訓練、炊き出し訓練等の防災訓練を実施している。これら一連の訓練は、住民の「なれ」もあって緊迫感が薄れてきているため、地域の防災を一段と高める防災訓練を必要としている。また、小さな区であるため、防災の掛ける費用が少なく、不備な物も多い。今回、東日本大震災での体験談（自主防災組織関係者の視点）、被災前後における自主防災組織の活動とその効果等についてお話を伺いたい。
内容	（１）はじめに 地震が起こると、震度はいくらなのか、何軒の家が被害を受けたのか、何人の方が避難し、そして亡くなったのか…。数字を通して被害状況を見てしまいがちだが、東日本大震災時のように、みんな一緒に何もかもを失うことの悲惨さの一方で、昭和 61 年の 8.5 水害のように、沢山ある家の中で、選ばれたように 3 軒だけが被害を受け、仮設住宅のプレハブに住んでいた両親の胸の内を思うと本当に切ないものがある。災害規模の大小ではなく、自分の生まれ育った街や集落、そして家や大切な人を失うことはとても悲しいものである。 自分の住む地域では災害の心配は無用と思っていても、いつ、どこで被災するかわからない。自分が得た知識や知恵を冷静に発揮していただくことができれば、国が広める、市が広める、町が広める「防災」、「減災」への一助になるものと信じている。 （２）市名坂東町内会の紹介について 市名坂東町内会は、現在加入数 186 世帯の町内会で、働き盛りの 40～50 代の方や単身赴任の家庭が多い中で、必然的に私たち女性が立ち上がり、つくり上げた町内会である。 町内会の 3 つのスローガンには、「地域住民相互の連帯・協調・主体性」、「防災活動」、「子育て支援とふるさとづくり」と掲げた。防災に力を注ぎ、併せて、身の丈にあった町内会、オリジナリティーのある町内会をめざし、活動を行っている。 （３）震災で起きた問題点と反省点をふまえて 町内会に入会していない、マンションの方々をどうすべきか。転勤族で若い家

族が多く、親戚もいない。夫が会社に出勤している間に災害に見舞われた今回のようなケースを想定し、その年の11月から未就学児を持つ若い母子を対象に、子育て支援を週1回、集会所を開放してスタートした。まちづくりは人づくりであり、人づくりは、人と人とのつながりである。そして、弱者は老人、障害者、子どもだけではない。乳飲み子を抱えたお母さんも弱者であると思う。手づくりポスターを作ったり、集会所で茶話会をやっていると口コミをしたり、地道な活動を展開しているところである。

また、さまざまな取組の中で、コミュニケーションだけでなく、防災について考えていただくようにしており、震災時、お店やガソリンスタンド、病院などの位置がよく分からなかったということから、防災便利マップを作成したり、消防署にお願いして意見交換という形をとり、子どもを抱え、市のフォーラムに参加できない母子に対する講話を企画したりしている。お母さんは何を感じ、どうしていたか。お互いが知恵を出し合って、完璧な答えがでなくても、その過程を大切にして、少しでも前に進めていきたい。人として、女性として、お母さんとしての尊い役目があるが、それをお手伝いするのも、また、わが町内会が望む子育て支援の一環であると自負している。

東日本大震災だけでなく、あらゆる災害がもたらす悲しみや苦しみ、つらさに、自分だけでなく、家族や知人が巻き込まれたりしたらと考えていただき、そのような事態にならないよう、防災・減災に対する心構えを大きく保っていく、是非そのような観点で災害に対して考え、準備する気持ちを持っていただきたいと切に望んでいる。



開催地より

自主防災組織関係者の視点から、東日本大震災での体験談、被災前後における自主防災組織の活動について、災害現場（避難所含む）での課題等について、具体的なお話をいただいた。地域住民や町内会の理想とも言える語り部のお話に共感した。